

| | |
|------------------|---|
| Title | 第14回 ピア・スーパービジョン報告：2014 第1回福祉こころ研究会[第一部のみ]・Swet（聖学院ウェルフェアネット）共催（聖学院大学総合研究所 人間福祉スーパービジョンセンター主催） |
| Author(s) | 五十嵐，成見 |
| Citation | 聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.2, 2015.1 :20-21 |
| URL | http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5242 |
| Rights | |



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

聖学院大学総合研究所 人間福祉スーパービジョンセンター主催 第14回ピア・スーパービジョン 報告

(2014 第1回福祉のこころ研究会 [第一部のみ]・SWnet(聖学院ウェルフェアネット)共催)

2014年10月11日(土)、聖学院大学4号館4402教室を会場に「第14回ピア・スーパービジョン」が開催された。今回のピア・スーパービジョンは、「福祉のこころ研究会」と「SWnet(聖学院ウェルフェアネット)」との共催である。第一部は、福祉のこころ研究会との共催で講演会(発題)及び質疑応答が行われた。休憩を挟んだ第二部では、実際にスーパービジョンを行い、少人数グループでの討論による共同研究が行われた。出席者は講師含めて19名であった。

開会の挨拶は、中村磐男教授(聖学院大学こども心理学科・人間福祉スーパービジョンセンター長)が務められた。

第一部の講演の講師を務められたのは、廣江仁氏(社会福祉法人養和会障害福祉サービス事業所F&Y境港所長、社団法人日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー、元聖学院大学非常勤講師)、講演題は、「福祉のこころを育むスーパーバイザー体験～バイザーとして、バイザーとして～」であった。以下は、講演の要約である。

「福祉のこころ」とは何か、それは、「互酬」(阿部志郎)、「自立と共生」(長谷川匡俊)、「自尊心を尊重する」(濱野一郎)などである。バイザーの役割とは、この「共生」を重視することである。「共」という字は、その漢字の形をしてみると、左右の手でお供え物を神に捧げる様子を表している。さらに「共」に心をつけると、「恭しい(うやうやしい)」という漢字になり、礼儀正しく丁寧である、という意味となる。バイザーにとって自己研鑽は、自分の成長のために不可欠なことであるが、しかしその研鑽は、「共」にある心がなければならない。そうでなければ、自己研鑽は、ただの自己満足に終わってしまう危険性を孕んでいる。しかし逆の言い方をすれば、この「共」にある心によって、自己研鑽がバイザーとしての豊かさにつながるの

である。

ソーシャルワーカーの働きは対人職種がメインであるが、ワーカーが向き合う人間は誰一人として同じわけではなく、性格の違い、やり方の違いなど、個別に応じた対応が求められる場合がほとんどであり、仕事をパターン化することができない。よって、ソーシャルワーカーの働きを健全に行うために、スーパーヴィジョン(以下SV)は、不可欠な活動である。しかし経験が乏しい場合、SVを行うことに対して、不安や恐れが伴いがちである。自分を曝け出すのが怖かったり、厳しく指摘されることを恐れたり、SVのやり方をそもそも把握できていなかったり等、様々な不安からSVを妨げる心理的要因がある。しかしSVは、ソーシャルワーカーとして成長し、抱えている不安を軽減するための最善の方法であることをいつも理解していなければならない。



第一部公演会風景(上段右:廣江 仁 講師)

SVに際して大切なことは、スーパーバイザーとスーパーバイジーの相互性の認識である。SVを行うことによって、スーパーバイジーにだけ、変容が起こるわけではない。バイジーのみならず、バイザーもまた成長を促されるのである。この両者が共に成長するところに、SVの最も大きな意義があるといってもいい。SVによって、両者が元気を与えられ、新たに仕事に向き合うことができるようになる。だから、特別なこととは思わずに、気軽にSVを受けられるような雰囲気づくりと自分自身の認識が肝要である。ソーシャルワーカーには少なからず、燃え尽きてしまいそうな時、仕事に対して無気力になる時、自らの力量を超えるような壁にぶつかり、挫折しように思える時がある。様々な克服の仕方はあるにせよ、SVは困難を乗り越える時を提供してくれる有意義な活動であることに間違いない。

廣江氏は、自らの現場の経験を豊富に織り交ぜながら、参加者に対して、SVの意義を丁寧に語られた。

第二部は、「ピア・スーパービジョン」として、実際に少人数のグループに分かれて討論をし、共同研究の時を持った。冒頭に、助川征雄教授（聖学院大学人間福祉学科・人間福祉スーパービジョンセンター SVR）から、「ピア・スーパービジョンとは？」と題するミニ・レクチャーを伺った後、実際にスーパーヴィジョンが行われた。個人情報保護のため内容は割愛せざるをえないが、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーや学生が、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。

閉会の辞は、人間福祉学部長兼人間福祉学研究科長牛津信忠教授、当日は、オープンキャンパスや大学院福祉学研究科講演会などと予定が重なったが、相川章子教授は初めから、助川教授はミニ・レクチャー担当、オープンキャンパスの担当を終えた田村綾子准教授も駆けつけ、SVC委員会のす

べての学内教員が顔を揃えた。



上段：第二部PSV風景

下段左：中村磐男スーパービジョンセンター長

下段右：助川征雄スーパーバイザー

（文責：五十嵐成見 [いからし・なるみ] 聖学院大学大学院博士後期課程在学）